サンタ目撃 4年間で1万件超

札幌市内の区別件数　人口や子どもの数に比例？

エリアSANTA中心に発見の手掛かり多数

クリスマスまで、いよいよあと少し。街中がそわそわするこの時期にあらためてサンタ捜索への関心を広めようと、捜索チームは、過去4年間で札幌市民から寄せられた目撃証言の行政区別件数を明らかにした。これにより、札幌市内でサンタが出没しやすい地域とその特徴が浮き彫りになった。

ここ4年間の捜索活動の成果もあり、捜索チームには多数のサンタに関する情報が寄せられている。同チームではそれらの情報を、特にサンタの目撃証言が多い札幌市内に限定して整理し、4年間の行政区別目撃件数（左図）を明らかにした。この時期に発表した意図として同チームの三田育三本部長は「札幌でこれだけサンタが目撃されていると周知させることで、市民の皆さんにサンタへの興味、そしてサンタ捜索への関心をいま一度持ってほしいと考えた」と話す。

18日、北海道新聞本社（札幌市中央区）の掲示板には目撃件数ごとに色分けされた札幌市の目撃件数分布図が掲出された。

分布図によると、最も多いのは中央区で7165件、次いで、過去にサンタの痕跡が多数発見されている豊平区の3633件となっている。傾向として、人口または子どもの数が多い地区で目撃件数も多いと考えられ、捜索チームでは以上の条件に該当する地区に注目している。総件数は1万8263件にものぼり、単純計算でいえば、市民の約1%がサンタを目撃していることになる。

目撃証言が多い中央区の中でも、特に情報が集まるのは「エリアSANTA」周辺。エリア内にあるサッポロファクトリーでは、昨年、アトリウムに毎年飾られるジャンボクリスマスツリーで、サンタのものと思われるメモが発見された。そこにはサンタがプレゼントを配るための「配送ルート」と思われる内容が記されていたとして大きな話題となった。また過去には、同館の煙突広場において、衣類の一部と考えられる赤い布や煙突頂上部分に白い足跡が発見されたという報告もあがっている。

他には、「立派な白いヒゲの恰幅（かっぷく）の良い男性を見た」「大きな白い袋を背負った男性が、煙突のある家の前で立っていた」などの証言が市内各地より寄せられている。

同チームの広報部によると、今回発表した分布図は18日の一般公開後、捜索チーム内に掲出され、都度情報更新される。今後は地方の目撃件数ごとも発表するという。なお、「赤い服を着ている人がいると思ったらケーキ屋さんの店員だった」や「トナカイだと思ったらシカだった」といった誤った情報も寄せられている模様。「情報を寄せる前にいま一度確認いただきたい」と注意を呼び掛けている。

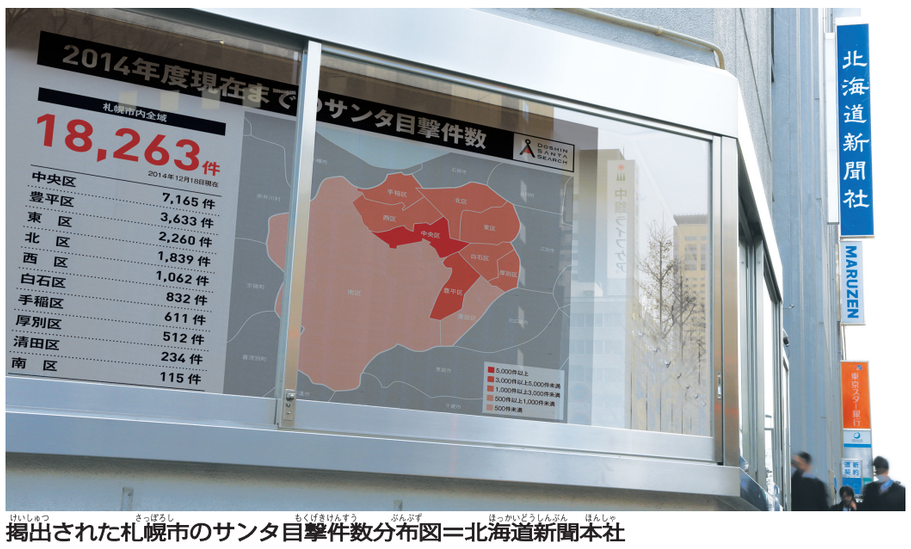
どうしん夢プロジェクト

どうしん夢プロジェクト　広告企画

行政区別目撃件数

行政区	件数
中央区	7165件
豊平区	3633件
東　区	2260件
北　区	1839件
西　区	1062件
白石区	832件
手稲区	611件
厚別区	512件
清田区	234件
南　区	115件

17日午前0時現在



掲出された札幌市のサンタ目撃件数分布図＝北海道新聞本社

サッポロファクトリー「ハピネスショット」

サンタを撮影

18日、捜索チームは定例会見を行い、サッポロファクトリーで今月6日から開催されている催し「ハピネスショット」で撮影された複数の写真に、サンタらしき影が写り込んでいるとして写真を公開。クリスマス前にサンタがサッポロファクトリーに来ていた可能性があると発表した。

発表によると、サッポロファクトリーの「ハピネスショット」で写真を撮影した女性らが「サンタのような謎の影が写り込んでいる」と捜索チームへ連絡。調べを進めると、「ハピネスショット」を利用した他の客の写真にも同じ現象が起きていることが分かった。写真や映像は全て撮影日時が異なるという。

さらに、今月4日からオンエアされていた「ハピネスショット」のCMにも同様の影が写り込んでいると読者から連絡があり、捜索チームは映像を入手。問題の写真とCMの映像を過去のサンタの痕跡と照合するなど鑑定を進めている。

「ハピネスショット」とは、同館のクリスマスイベントの一つでアトリウム内に設置されたWEBカメラでクリスマスツリーをバックに撮影を行うと、その写真が館内の大型ビジョンやホームページ、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などで発信されるというもの。思い出の「1枚がすぐにシェアできるとあって、ファミリーからカップルまで幅広い層に人気のある催しだ。

捜索チームの三田本部長は会見で「サッポロファクトリーにはサンタと親和性のある煙突や赤レンガがあるため、これまでにも目撃証言や痕跡が発見されている。プレゼント選びに最適な場所の一つとして、下見に来ている可能性がある」と見解を示した。捜索チームでは、今後、捜索範囲を広げるという。

ジャンボクリスマスツリーを中心に館内をクリスマス色に彩るだけでなく、今年は「ハピネスショット」で来場者の幸せを形にしてくれるサッポロファクトリー。サンタの心も引き寄せるであろう同館の取り組みは今後も注目される。

なお、この影が写っているとみられる「ハピネスショット」のCMは、同館のホームページから閲覧することができる。



㊤読者から投稿のあった、サンタと思われる影が見られる「ハピネスショット」の写真
㊦今月4日からオンエアされていた「ハピネスショット」CMの1シーン（映像の一部抜粋）

道内各地で奮闘する捜査員へ

物資の輸送開始

11月下旬に発表された、サンタの最重要捜索地域「エリアSANTA」の連携強化策により、今年からサッポロファクトリーへ移転した同チームの「物資課」。捜査員への物資手配と管理を主に行う部署で、北海道新聞社の物流関連会社と提携し、道内各地の支部へ向けて捜索物資の輸送を開始した。

主な物資内容として、防寒性に優れたダウンジャケットやフリース、スノーブーツなどのアウトドア用品が中心。また、捜索中でもすぐに口にできるよう、キャンディーやチョコレートなどの食料も同梱された。担当者によると、物資は全てサッポロファクトリー内にある店舗にて調達したと言い、部署を移転したことによるメリットが目に見える結果となった。

物語の主人公に学ぶ　シンデレラストーリーの描き方

卓上サンタ

赤い鼻が原因でいじめられていたトナカイが、サンタとの出会いにより人気者に変わるお話。これは、サンタの案内役であるルドルフにまつわる一説である。

サッポロファクトリーのホームページから閲覧できるCMでも、一般人のある女性が同館で「ハピネスショット」を体験し、偶然その写真が人の目に留まったことでモデル、女優へと変身するお話がモチーフになっている。どちらもふとしたきっかけで訪れたチャンスをつかむことで、人生が大きく好転するというメッセージが込められているのではないかと捜索チームは「キャッツボール」に熱い視線を送る。

札幌には17年ぶりに再上陸を果たし、今回で3度目の公演となる「キャッツ」。来年1月18日から北海道四季劇場にて上演される。

出没情報をもとに対策を検討

今週末から訓練実施

捜索チームは「エリアSANTA」における捜索訓練の実施計画を発表した。時期は今週末の予定。数多くのサンタ目撃証言から、あらためて捜索の最重要地域であることが明らかになった「エリアSANTA」。このエリアでいかにサンタを発見するかについて検討を重ね、捜索訓練の内容を組み立てたという。

その際、捜索チームが助言を求めたのは、世界のサンタ研究をリードするアダムスキー博士。加えて、日本、札幌の事情を熟知しているということで三田育三本部長もアドバイザーとして参加している。基礎体力づくりのトレーニング内容を見直し、さらに、飛行物体を発見するための動体視力トレーニングなど新しい訓練がプログラムに組み込まれる模様だ。

同チームの教育部担当者は、「訓練中のメンバーを見かけたら温かく見守ってほしい。なお、差し入れは随時受付中です」とコメントしている。

捜索チーム　活動雑記

■交流を深めてさらに結束

チーム内でプレゼント交換

大詰めとなるサンタ捜索に向けてより結束を固めるため、捜索チームで少し早いクリスマスプレゼント交換会を開催。機能性の高い文房具や保温グッズなど、捜索中に活用できるアイテムが多く見受けられた。

読みがな入り紙面が見られる!
サンタ捜索WEB
DOSHIN SANTA SEARCH
「我が家のサンタさん」募集中!
お子さんやペット、ご家族のサンタ姿を投稿しませんか？
サンタ捜索WEB内から投稿可能!
http://adv.hokkaido-np.co.jp/santa/

企画制作／北海道新聞社広告局
この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご理解、ご了承願います。次回は12月21日朝刊予定

（C）北海道新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。